

本年度の講座実施計画及び目標(講義内容、日程、担当者):シラバスを別紙添付

2017年9月秋学期より週に1回講義を実施し、一学期15回のペースで行う予定である。アジア全体を視野に、音楽及びアジア芸術を通じて、相互理解を深めたいと、異文化を尊重することを主旨にしたシリーズ講義である。その内容、講演者及び時間は、次のように企画している。ただし、初年度は、音楽を軸に展開することになるが、講座全体としては、随時、歴史、教育、政治、経済、哲学など幅広いテーマを講義に取り入れていけるよう工夫していく。

- 1、09・07 第一講 序論「アジア音楽の歴史的流動」本講座の趣旨、全般の展開について—趙維平（上海音楽学院教授）
- 2、09・14 第二講 シンポジウム：「シルクロードにおける西アジアの楽器」Bo Lawergren（Prof. of New York City U.）
- 3、09・21 第三講 「アジアにおける食と音楽」—徐静波（復旦大学教授）
- 4、09・28 第四講 「近代中国音楽創作の傾向」—Frank Kouwenhoven 氏
- 5、10・12 第五講 ワークショップ「アジア音楽の伝統にある流派を考える」井口淳子（大阪音楽大学教授）
- 6、10・19 第六講 「アジア共同体としての唐代音楽制度及びその周辺」—渡辺信一郎（元京都府立大学学長）
- 7、10・26 第七講 「アジア音楽から見る中国音楽創作の可能性と特徴」—譚盾（著名作曲家、指揮者）
- 8、11・02 第八講 「政と楽の思想のアルケオロジー：一帯一路とその底流」—鈴木規夫（愛知大学教授）
- 9、11・09 第九講 「二十世紀における東アジア映画の言語とその表現」—黄献文（武漢大学芸術学院教授）
- 10、11・16 第十講 「アジア音楽教育から見る中国音楽大学に教えるべきものを考える」—管建華（南京芸術大学教授）
- 11、11・23 第十一講 韓国とアジア音楽との関係講義調整中
- 12、11・30 第十二講 「東アジアにおける中国古典文学の美とその哲学精神」—汪涌豪（復旦大学文学部教授）
- 13、12・07 第十三講 「東南アジアから見る海のシルクロードの痕跡—銅羅の響き」—Arsenio Nicolas (Professor of Mahasarakham University, Thailand)
- 14、12・14 第十四講 「アジア共同体における音楽の近代」—榎本泰子（中央大学教授）
- 15、12・21 第十五講 「音の海のワンアジアへ」(仮題)—佐藤洋治（ワンアジア財団理事長）

実施全体計画(年次計画及び目標を含む)

今回の講座「アジア共同体」プログラムでは、音楽学者と作曲家以外に「社会秩序の再構築」の観点も持った研究者の力を借りて、講義を進めていくことである。もちろん中国国内の研究者だけではなく、海外の日本やオランダなどのアジア音楽に関する研究者にも講義を御担当願う。アジア連帯意識の樹立、アジア共同体創生の意欲の強化などが本講座の目的である。講師が一方向的に講義をするにのみならず、学生の能動性を喚起して教室の場で彼らに意見を発表させるように考えている。講座のテーマをめぐって聴講の学生に論文募集を行い、優秀論文の提出者に優秀賞と賞金を授与する。そのほかに、講義に連動して、世界各地から招聘する研究者、講師などともに、小型の国際シンポジウムの開催や論文集の編集・出版なども考えている。上述した講義や研究をステップにし、アジア共同体の創成に向かって、努力する次第である。

講座において使用される言語

中国語・日本語・英語（必要に応じ逐語通訳）

特記事項（複数言語を使用するなど）

講座実施期間（開講が予定されている曜日・時間を含む）

2017年9月—2017年12月。木曜日15:30～17:00

※記入欄が不足の場合は、別紙を添付してください。